

令和4年度 中学校教育研究会 公開授業

美術科学習指導案

指導者 長野県総合教育センター 専門主事 千原 厚 先生
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 助教 大島 賢一 先生
日 時 令和4年5月13日（金）
授業学級 2年A組（41名）
授業会場 美術室
題材名 「自分なりの『柱』のカタチ～材料の特性を生かして～」
授業者 常田 浩二

- 1 美術科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 1
- 2 教科としての全校研究テーマの受け止め・・・・・・・・美術 1
- 3 題材名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 1
- 4 題材の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 1
- 5 題材の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 2
- 6 美術科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・美術 2
- 7 題材に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 2
- 8 題材展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 7
- 9 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・美術 9

信州大学教育学部附属長野中学校 美術科

研究者 常田 浩二 横山 采佳

1 美術科の研究テーマ

主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方

2 教科としての全校研究テーマの受け止め

「木組み～組んだ形から感じたことを表す～」・1年（令和3年・11月）では、木を組んだ形から主題を生み出し、木の組み方を発想し構想する学習を構想した。そこでは、材料体験を行う中で、「コンセプトシート」に整理した「感じたこと」、「見立て」、「形の特徴」を相互に関連させて考えたことを基に、主題とその表し方を考える展開を位置付けた。

K生は、材料体験でつくった形から、主題を「広がり、複雑」とし、形に表し始めた。その後、つくった形を「コンセプトシート」（図1）に整理したK生は、できた形から「感じたこと」である「個性」を主題に加えようと考えた。そして、主題に加えた「個性」を形に表すために、「コンセプトシート」の「形の特徴」を見返したK生は、三角形の組み合わせ方を工夫すれば「広がり、複雑、個性」を表すことができそうだと考えて木

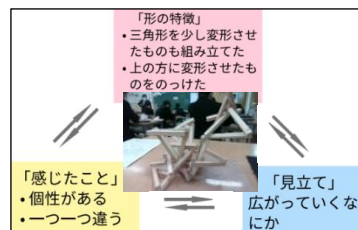


図1 K生のコンセプトシート

を組んだ（図2）。このようなK生の姿は、「造形的な見方・考え方」を働かせ、木を組んだ形から主題を生み出し、木の組み方を発想し構想することができた姿であり、主題を基に、発想し構想する力を高めた姿と捉える。（研究紀要 美術9～12）



図2 K生の作品

題材の終末、教師は、抽象的な彫刻作品を鑑賞して、主題とその表し方を考える場を位置付けた。K生は、作品の先端が上に細くなっている表し方から、「上に伸びている」感じがしたり、下部が太くしっかりしている表し方から、「しっかり自分で立っている」と見立てたりしたことを関わらせ、主題を「力強さ」と考えた。このようなK生の姿は、主題と表し方を捉え直しながら表現したり、鑑賞したりするよさを実感することができた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿と捉える。（研究紀要 美術12～13）

本題材「自分なりの『柱』のカタチ～材料の特性を生かして～」・2年では、材料体験や制作過程において、「アイデアシート」に整理した「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」を相互に関連させて自分の考えを整理する。そして、そこで考えたことを基に、主題とその表し方を考える展開を位置付ける。このようにすることで、生徒は「造形的な見方・考え方」を働かせ、主題を基に、構想を練り、附中の「柱」を形に表すことができる考えた。

題材の終末、教師の作品を再度鑑賞し、主題の表し方について考えた後、「『柱』のカタチ展」として、友と互いの作品を鑑賞し合い、主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う活動を位置付ける。このようにすることで、自己の表現のよさや見方や感じ方の深まりを実感することができるのではないかと考えた。

上記のような学習を積み重ねていくことで、美術科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

3 題材名・学年 「自分なりの『柱』のカタチ～材料の特性を生かして～」・2年

4 題材の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【A表現(2)・[共通事項]】

形や色彩、材料が感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に、附中の「柱」を全体のイメージで捉えることを理解するとともに、石膏ガーゼの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【A表現(1)ア・B鑑賞(1)ア(7)】

附中の「柱」について考えたことなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練るとともに、造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に附中の「柱」について深く考えたことなどを基に表現したり鑑賞したりしようとする。

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、材料が感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に、附中の「柱」を全体のイメージで捉えることを理解している。 技 石膏ガーゼの特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	思 附中の「柱」について考えたことなどを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 思 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態 美術の創造活動の喜びを味わい、附中の「柱」について考えたことなどを基に構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表したりしようとしている。 態 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞に取り組もうとしている。

6 美術科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点1に関わる仮説

- ・材料体験や制作過程において、「アイデアシート」に整理した「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」を相互に関連させて主題とその表し方について考えたことを基に、形に表す展開を位置付ける。このようにすることで、「造形的な見方・考え方」を働かせ、主題を基に構想を練り、附中の「柱」を形に表すことができる。(題材)
- ・「形の特徴」から友が「感じたこと」を受けて、自分の主題の表し方について考えを明確にして、形に表す活動を位置付ける。このようにすることで、主題の表し方を深めることができる。(本時)

(2) 重点2に関わる仮説

- ・題材の終末、教師の作品を再度鑑賞し、主題の表し方について考えた後、『『柱』のカタチ展』として、友と互いの作品を鑑賞し合い、主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う活動を位置付ける。このようにすることで、自己の表現のよさや見方や感じ方の深まりを実感することができる。

7 題材に寄せた教材化

ア 主題を基に、構想を練り、附中の「柱」を形に表す学習を構想した意図

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編では、A表現(1)アに関わって「第2学年及び3学年では、第1学年における自然をはじめとする身近な事物に加え、自己の内面や社会の様相などを深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に発想や構想をすることをねらいとしている。」とある。また、「目に見える実在の形のみならず、自己の内面、願望、感情、夢や想像の世界などから感じ取ったり考えたりしたことなど、生徒自らが心を動かされたものや自己の表したいことなどを基に主題を生み出し、発想や構想をすることができるよう指導することが大切である。」とされている。

本題材では、附中の「柱」について自己の内面を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことから生み出した主題を基に、発想や構想をして、形に表していく学習を構想する。附中の「柱」とは、本校において、2年生の立場を表したものであり、1年生を附中の「宝」、3年生を附中の「顔」と呼称し、それぞれの立場で学校生活の充実を目指して取り組んでいる。今年度の2年生も、4月の進級当初、学年集会を開き、附中の「柱」の立場となつてどのようなことを思うか、友と語り合った。その中で、生徒は、「上級生が自分たちにしてくれたように、後輩の手本となる自分になりたい。」「1年生に負けないように、自分たちも頑張りたい。」など、上級生として1年生を支えていこうとする様々な思いを共有した。2年生の当初に、附中の「柱」を基に、考えたことなどを形に表していく学習を構想することで、生徒が内発的に主題を見だし、体験したことを思い浮かべながら、表したいことをもつことができると考えた。

イ 石膏ガーゼを主材料として扱う価値

本題材では、石膏ガーゼ（美術9参照）を主材料、針金や木材などを骨組み・芯材とする補助材料として、主題を立体的な形に表していく。

生徒は、石膏ガーゼを用いることで、「くっつける」「ひねる」「はがす」「伸ばす」など、作品を単純化したり強調したりして、自己の内面、願望、感情、夢や想像の世界などから感じ取ったり考えたりしたことを形に表していくなど、創造的な構成を考えやすく、自分の考えを練り上げて心豊かに発想し構想をすることができるのではないかと考えた。例えば、ある生徒は附中の「柱」を表現しようとする際に、「力強さ」を思い浮かべ、**図3**のような単純化した中空の形をつくるだろう。また別の生徒は、**図4**のようなガーゼが垂れたり皺がよったりなど、偶発的にできた軽やかな形から感じ取った「風でなびいている」様子を強調させて、「希望」を思い浮かべ、形に表していくだろう。さらに、**図5**のように複数の形を組み合わせることで主題を表したり、できた形の特徴から感じたことを基に主題を捉え直して、新たに発想し構想をしたりしていく生徒もいるだろう。



図3 中空の形



図4 軽やかな形



図5 組み合わせた作品

このように、石膏ガーゼを用いることで、生徒はその特性を生かした様々な形からイメージを膨らませていき、自己の内面にある複雑な思いを、石膏ガーゼがもつ「造形的なよさ」と関わらせて、形に表していくことができるのではないかと考えた。

ウ 「アイデアシート」を用いる価値

自分の思いや考えを表していくためには、感覚的にその場で思いついた表現をするだけではなく、部分や全体に着目して、構成の仕方を試行錯誤しながら発想し構想していく必要がある。

そこで、本題材では、材料体験及び発想や構想をする際に、「アイデアシート」(**図6**)を用いる。生徒は、材料体験でつくった形や、発想や構想をしながらつくった形を見返し、「形の特徴」から「感じたこと」を、「アイデアシート」に整理しながら構想を練っていくようにする。そして、材料体験でつくった形や、発想や構想をしながらつ

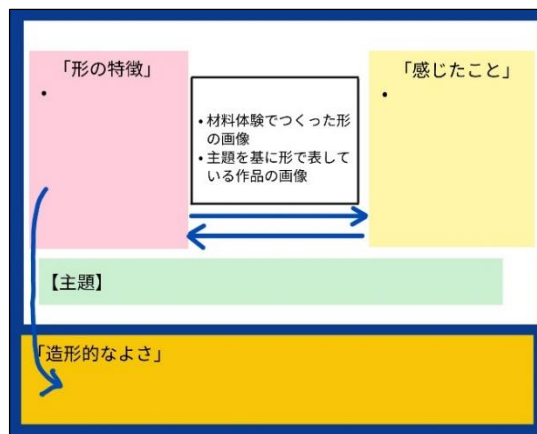


図6 「アイデアシート」(概要)

くった形を見返していく中で、「かっこいい」や「くねくねした形が好き」といった「造形的なよさ」を捉え、「アイデアシート」にまとめることで、できた形や作品に対する魅力を感じ、主題を形に表していくだろう。その際、ペアやグループで互いの作品の「造形的なよさ」を伝え合う場を設けることで、見方や感じ方をさらに広げられるようにする。

このようにすることで、生徒は、対象や事象を深く見つめ、主題の中心となるものや表したい形を整理して、発想し構想を練り、次時への学習の見通しをもつことができると考えた。また、「アイデアシート」を用いて考えを整理することで、生徒は、自らの主題や表現の意図を明確にし、主題とその表し方を深めるとともに、友の主題や表現の意図を読み取ることもつながると考えた。

(1) 材料体験や制作過程において、「アイデアシート」に整理した「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」を相互に関連させて主題とその表し方について考えたことを基に、形に表す展開を位置付ける

第1時、教師は、附中の「柱」となった今の気持ちを問う。生徒は、「1年生を引っ張り、3年生の土台として学校を支えなければならない。」といった前向きな気持ちや、「先輩たちのように1年生を支えていけるかどうか心配だ。」といった不安な気持ちを述べるだろう。教師は、この他にも、「希望、伝統を伝える、新しい取組、支える」などといった、様々な気持ちを取り上げ、全体に紹介する。そして教師も、これらの生徒と同じような気持ちがあることを伝え、生徒が附中の

「柱」のイメージをもてるように、教師の作品(図7①)を提示し、感想や印象を尋ねる。生徒は、「円柱に何か巻き付いている」(図7②)、「竜巻のようだ」(図7③)

「円柱に巻き付いている形がかっこいい」(図7④)などと、述べていくだろう。教師は、このような生徒の反応を、「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」の三つの視点に分類しながら板書し、次時以降に生徒が「アイデアシート」を活用していく際に想起し、附中の「柱」を表していくことができるようにする。そして、教師は、形に表す過程において三つの視点から作品を見返すことによって、主題を捉え直しながら形に表してきた過程を生徒に伝えた後、作品の主題「広がり、伝わるもの」を生徒に伝える。そして、自分なりに「形の特徴」から「感じたこと」を考え、表したり感じたりすることが大切であると伝え、附中の「柱」をどのように表していきたいかを問い、題材の学習問題「自分の思い描く附中の『柱』を形に表そう。」を設定する。生徒は、どのように附中の「柱」を表していこうか考え、「発信することで1、3年生を支える」などを主題としていくだろう。

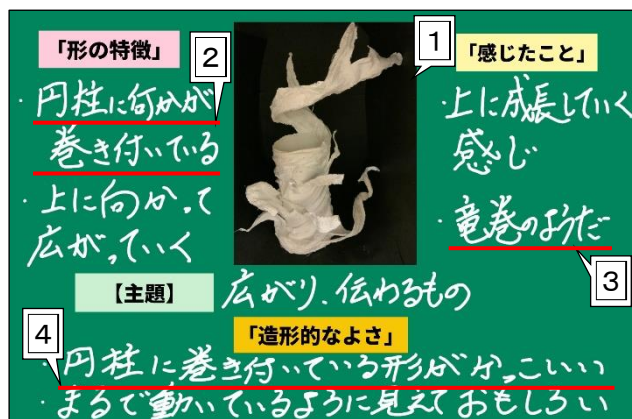


図7 教師作品を提示した際に共有し、「アイデアシート」の活用につなげる板書(例)

第2～3時、教師は、石膏ガーゼで形をつくり試す材料体験を行う場を設ける。材料体験では、第1時に決め出した主題を表すことを念頭において形をつくり試す生徒もいれば、石膏ガーゼでつくることのできる様々な形をつくり試すことによって、表し方を考えていく生徒もいるだろう(図8)。そこで教師は、つくり試すことを重ねていく中で見えてきたことを「アイデアシート」に整理するように促す。生徒は、「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」の三つの視点に沿って整理するだろう。また、教師は、必要に応じて、関係のある内容を矢印や線でつないで、自分の考えを整理してもよいことを伝える(図9)。



図8 材料体験においてつくるであろう形

第4～5時、生徒は、材料体験でつくった形を参考に、主題を形に表す。A生は、主題「発信することで1、3年生を支える『柱』」を、どのような形で表すことができるかを考え、前時までに、友や自分が材料体験でつくった形や、「アイデアシート」に整理した内容を見返しながら形に表していく。第5時の終末、教師は、これまでつくってきた表し方で主題を表すことができているかを尋ね、主題とその表し方を見返すように促す。A生は、つくっている形と「アイデアシート」を見返す中で、「大小の変化が大きいうねうねした形が飛び出ている形は、積極的な感じがするだろうか、単に発信している感じになってしまわないだろうか。」などと考え、友の感想や考えを聞いてみたいと願うだろう。

第6時（本時）、教師は、自分の作品の主題と表し方について、友の感想や考えを聞いてみたい、という生徒の振り返りを紹介する。そして、その生徒の作品を全体に提示し、どのようなことを感じるかを尋ねる。生徒は、「形の特徴」から「感じたこと」を述べたり、形から主題を予想したりするだろう。また、「造形的なよさ」を述べたり、自分の考えを伝えたりする生徒もいるだろう。このように友の考えを聞くことで、生徒は、客観的な見方や感じ方を得ることができそうだと考えるだろう。そこで教師は、互いに作品を見せ合い、「形の特徴」から「感じたこと」を友に尋ねるように促す。A生の作品（図10 1）を見た友は、「『飛び出す形』から『考えを発信する』ことを感じる。」など、「形の特徴」から「感じたこと」を述べるだろう。それを受け、A生は、「『外に飛び出す形』から『積極的に考えを発信する』感じを出そうとした。」と自らの主題とその表し方などの構想を伝えることもあるだろう。さらに、「たくさんの飛び出す形から、2年生も1年生とともに伸びようとしている感じがする。」「飛び出す形がうねうねではなく、手をまっすぐ上に伸ばした直線的な形になると、積極的な感じがする。」など、「形の特徴」から「感じたこと」について、自分なりに考えた主題の表し方を述べる友もいるだろう。このように友の考えを聞くことで、客観的な見方や感じ方を得て、主題の表し方について考えを明確にして、形に表していくことができそうだという生徒の反応から、学習課題「『形の特徴』から友が『感じたこと』を受けて、自分の主題の表し方について考えを明確にして、形に表そう。」を据える。

友の考えを聞いたA生は、積極的に考えを発信している感じを出すには、外に飛び出す形を「うねうねした形」にした方がよいか、「直線的な形」にした方がよいか迷い、主題の表し方を捉え直そうとするだろう。A生は、「ぴんと伸びている形は、勢いを感じる。『積極的に考えを発信している』という主題を表せそうではあるが、『うねうねした形のおもしろさ』という『造形的なよさ』も作品に残したい。」と考えるだろう。さらに、「直線的な形とうねうねした形を見比べると、うねうねした形は自信なく発信する感じがする。そのような形も組み合わせることで、直線的な形が際立つのではないだろうか。」などと考えながら作品をつくるだろう。授業の終末、教師は、つくった作品を見返し、「アイデアシート」にまとめ

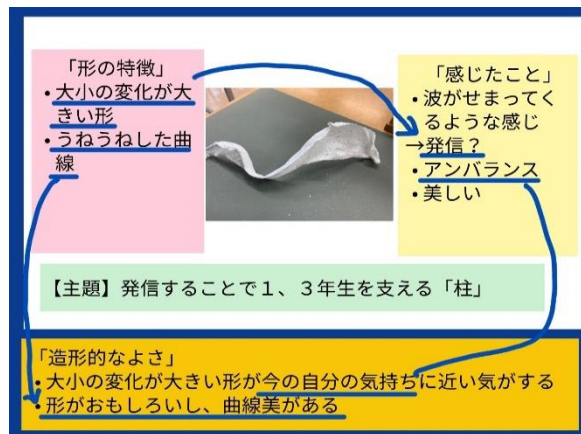


図9 材料体験における「アイデアシート」(例)

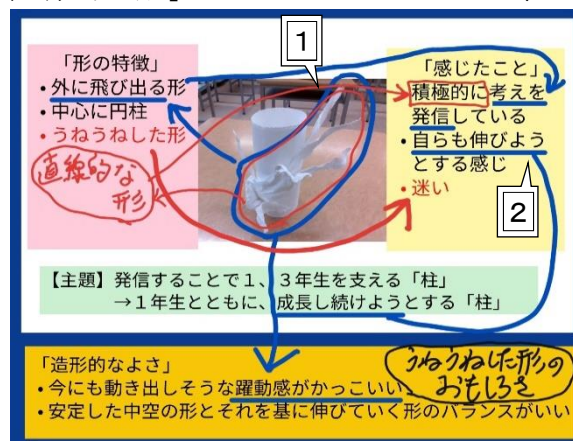


図10 主題を基に形に表す過程で用いる「アイデアシート」(例)

る場を設ける。生徒は、「形の特徴」から「感じたこと」や「造形的なよさ」について「アイデアシート」に整理し、主題の表し方を深めていくことができるだろう（図10②）。

第7時～11時、教師は、必要に応じて主題や「アイデアシート」を見返したり、つくった作品から「感じたこと」などを友と伝え合ったりしながら表していくように促す。その中で、形を省略したり強調したりして、さらに主題が表れるようにつくっている友の表し方を全体で共有する。A生は、「伸びていく石膏ガーゼの形を大きくしたり、枚数を増やしたりすれば主題を強調できると思っていたが、逆に大きさや数を制限することで、主題を表せそうだ。」などと、試行錯誤を繰り返しながら主題を形に表していくだろう。

以上のように、材料体験や制作過程において、「アイデアシート」に整理した「形の特徴」、「感じたこと」、「造形的なよさ」を相互に関連させて主題とその表し方について考えたことを基に、形に表す展開を位置付ける。このようにすることで、「造形的な見方・考え方」を働かせ、主題を基に、構想を練り、附中の「柱」を形に表すことができると考えた。

(2) 題材の終末、教師の作品を再度鑑賞し、主題の表し方について考えた後、『柱』のカタチ展」として、友と互いの作品を鑑賞し合い、主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う活動を位置付ける

題材の終末、教師は、第1時に鑑賞した教師の作品（図11）を提示し、主題を確認した後、その表し方を考える場を設ける。生徒は、教師の作品の主題「広がり、伝わるもの」からその表し方を鑑賞し、「はじめに鑑賞した時は、巻き付いた形で周囲に何か広がることを表したと思っていた。改めて見てみると、全体の左右非対称な形からも広がりを感じるし、手のように広がった形から何かを伝えようという意思を感じる。」などと「形の特徴」から「感じたこと」を述べ、題材展開の初めに鑑賞した時と比べ、より様々な視点から主題とその表し方の捉えを深めていったことを自覚するだろう。



図11 鑑賞する教師の作品

教師は、見方や感じ方の深まりに気付いた生徒に、『柱』のカタチ展」として、多くの友の作品を鑑賞し、多様な主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う場を設ける。生徒は、「つぎはぎだらけの表面は、他にはないおもしろい形だし、作りかけのようだ。『これから学校を支えていく柱をつくっていつている最中』という主題をつぎはぎの形で表わしていると思う。」などと、友が表した作品の主題とその表し方を「造形的なよさ」と関わらせて捉えていくだろう。生徒は、友の作品を鑑賞して考えたことや感じたことを互いに伝え合い、友に共感してもらったことから自信をもったり、自分では気付かなかった「造形的なよさ」に気付いたりして、主題とその表し方をさらに深めていくだろう。その後、生徒は、本題材を通して学んだことを振り返り、自己の表現のよさや見方や感じ方の深まりを実感していくだろう（図12）。

はじめに先生の作品を見た時と、最後に見た時では、同じ形を見ているのに、感じたことが変わっていた。自分の作品や友の作品をアイデアシートで何度も見返すことで、様々な見方で見たり、考えたりすることができるようになってきた気がする。友からも自分では気付かなかった自分の作品のよさを伝えてもらえてうれしかった。

図12 生徒の振り返り（例）

以上のように、題材の終末、教師の作品を再度鑑賞し、主題の表し方について考えた後、『柱』のカタチ展」として、友と互いの作品を鑑賞し合い、主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う活動を位置付ける。このようにすることで、自己の表現のよさや見方や感じ方の深まりを実感することができると思

8 題材展開 主題を基に、構想を練り、附中の「柱」を形に表す学習

全 12 時間扱い 本時は第 6 時

段階	◆学習 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	<p>◆自分なりの「柱」の形をイメージし、自らの思いを基に主題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属長野中学校の「柱」となった今の気持ちを問う。 ・アのような気持ちの他にも、「希望、伝統を伝える、新しい取組、支える」といった様々な気持ちを全体に紹介する。 ・教師の作品を提示し、感想や印象を尋ねる。 ・ウのような反応から、三つの視点を見返すなどした教師の制作過程や、表そうとした作品の主題「広がり、伝わるもの」を伝える。 ・エのような反応から、題材の学習問題「自分の思い描く附中の『柱』を形に表そう。」を設定し、ワークシートに主題を書くように促す。 	<p>ア 私は、1年生を引っ張り、3年生の土台として学校を支えていきたいが、そのようにできるのか不安もある。</p> <p>イ 学年集会でも、附中の「柱」となった気持ちを確認したが、やはりそれぞれが様々な思いをもっていた。私は、不安もあるけれど、2学年という新しい学年になってがんばろうという気持ち大きい。</p> <p>ウ 円柱に何かが巻き付いている。竜巻のようだ。円柱に巻き付いている形がかっこいい。主題は、「成長する自分」だろうか。</p> <p>エ 先生は、巻き付いた形で周囲に自分の考えが広がることを表し、飛び出す形が他者に自分の意見を伝えていきたいという思いを表したのではないかと。私だったら、どのような附中の「柱」を表していこうかな。</p> <p>オ 私は、2年生になって自分の考えを発信していきたいと思っているし、それが1、3年生を支えることにもつながると思う。主題は、「発信することで1、3年生を支える」にしよう。どのような材料を使って、どうやって形に表していけばよいだろうか。</p>	●知 ●思 ①(観察・ワークシート)	1
	<p>◆石膏ガーゼで形をつくり試し、つくった形から感じたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オのような反応から、石膏ガーゼや補助材料の説明をし、形をつくってみる材料体験を行う場を設ける。 ・カのような反応から、「アイデアシート」を紹介し、材料体験で見えてきたことを三つの視点に沿って記入するように促す。 ・関係のある内容を矢印や線でつないだりしてもよいことを伝える。 ・クのような反応から、ペアやグループで感じたことなどを共有する場を設ける。 	<p>カ つるしたらそのまま固まっておもしろい。くねらせて固めてみたら、動きのある形になった。つくったそれぞれの形の中で、主題が感じられる形はあるだろうか。</p> <p>キ 「アイデアシート」に考えをまとめるとイメージが湧いてきそうだ。うねうねした形はおもしろいし、大小の変化が大きい形からは、波がせまってくるような感じがする。それが「発信」につながっているような気がする。</p> <p>ク 大小の変化が大きい形は、アンバランスでもあり、それは今の自分の気持ちに近い気もする。一つの形から様々なことを感じ取れそうだ。友の考えも聞いてみたい。</p> <p>ケ 「小さい形から大きな形に変化しているところから、何かが飛び出てくる感じがする。」と友が言っていた。主題を形に表していけそうな気がする。</p>	●態表(観察・ワークシート)	2 3
展開	<p>◆主題を基に、形に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケのような反応から、主題を基に、形に表していくように促す。 ・コのような反応から、これまでつくってきた表し方で主題を表すことができているかを尋ねる。 	<p>コ 材料体験でつくった大小の変化が大きいうねうねした形をつくろう。変化が大きい形を円柱につけることで、形が飛び出していて、積極的に考えを発信しているような気がする。「アイデアシート」に書き加えておこう。</p> <p>サ 大小の変化が大きいうねうねした形が飛び出ている形は、積極的な感じがするだろうか、単に発信している感じになってしまわないだろうか。友の考えも聞いてみたい。</p>	●知・技 ●思 ①(観察・ワークシート・作品)	4 5
	<p>◆主題とその表し方を捉え直しながら形に表す。</p> <p>本時のねらい：主題の表し方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の考えを聞きたいという振り返りを共有し、その作品を全体に提示し、どのようなことを感じるか尋ねる。 	<p>シ シンプルな形に気品を感じるが、シンプルな形ではおもしろくない。整った形を加えるとさらに気品を感じるという友の考えになるほどと思った。友の考えを聞くことで主題を形に表していくことができそうだ。</p>	○思 ①(観察・ワークシート・作品)	6

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・シのような反応から、学習課題『『形の特徴』から友が『感じたこと』を受けて、自分の主題の表し方について考えを明確にして、形に表そう。』を据える。 ・スのような反応から、形に表していくように促す。 ・ソのような反応から、本時の学習を通して考えたことを「アイデアシート」に整理するように促す。 	<p>ス 私の作品を見た友は、「確かに、『飛び出す形』と『考えを発信する』には、外に出すという共通点があるから、主題を表すことができているのではないか。」と言っていた。別の友は、「飛び出す形がうねうねではなく、手をまっすぐ上に伸ばした直線的な形になると、積極的な感じがする。」と言っていた。どのような飛び出す形にすればよいか考えてつくろう。</p> <p>セ 飛び出している形がうねうねではなく、手をまっすぐ上に伸ばした直線的な形になると、積極的な感じがする。びんと伸びている形は、勢いを感じる。主題を表せそうではあるが、「うねうねした形のおもしろさ」という「造形的なよさ」も作品に残したい。</p> <p>ソ 直線的な形とうねうねした形を見比べると、うねうねした形は自信なく発信している感じがする。そのような形も組み合わせることで、直線的な形が際立つのではないだろうか。今日の学習を振り返って、考えを整理したい。</p> <p>タ 友の考えも参考に、うねうねした形と直線的な形の対比によって、自信のない発信の様子と積極的に発信する様子を表すことができそう。今後は、直線的な形を増やすことで、さらに積極的に発信する感じが出るようにしたい。また、自信のない発信から積極的に発信する様子に変化しているように見えるから、主題に「成長し続ける」を加えて表していこうと思う。</p>	32分	○思 ①（観察・ワークシート・作品） クシート） ○態表（観察・ワー	6（11（本時は第6時）
	<ul style="list-style-type: none"> ・形を省略したり強調したりして、さらに主題が表れるようにつくっている友の表し方の工夫を全体で共有する。 ・チのような反応から、さらに主題が表れるように形に表す場を設ける。 	<p>チ 発表した友のように、形を大きくすると、堂々と発信している感じも表せそう。数だけではなく、大きさも考えて表していこう。</p> <p>ツ 伸びていく石膏ガーゼの形を大きくしたり、枚数を増やしたりすれば主題を強調できると思っていたが、逆に大きさや数を制限することで、主題を表すことができそう。主題を表すことができたし、魅力的な作品になった。</p>	8分		
終 末	<p>◆自己の表現のよさや見方や感じ方の深まりを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時に鑑賞した教師の作品を提示し、主題「広がり、伝わるもの」を確認した後、その表し方を考える場を設ける。 ・テのような反応から、『『柱』のカタチ展』として、友と互いの作品を鑑賞し合い、主題の表し方を「造形的なよさ」と関わらせて考えたことや感じたことを伝え合う場を設ける。 ・題材を通して学んだことを振り返る場を設ける。 	<p>テ はじめに鑑賞した時は、巻き付いた形で周囲に何か広がることを表したと思っていた。改めて見てみると、全体の左右非対称な形からも広がりを感じるし、手のように広がった形から伝えようという意味を感じる。形の特徴から感じたことをつなげて造形的なよさを考えると考えが深まりそうだし、この学習を通して、以前よりも形の特徴から感じ取れるようになってきた。友の作品も鑑賞したい。</p> <p>ト つぎはぎだらけの表面は、おもしろい形だし、つくりかけのようだ。「これから学校を支えていく柱をつくっている最中」という主題をつぎはぎの形で表していると思う。</p> <p>ナ 友は、自分の作品に対して、段々と大きくなっていく巻き付いた形が発信をしたいという思いの強さの変化を感じてよい、と述べていた。</p> <p>ニ はじめに先生の作品を見た時と、最後に見た時では、同じ形を見ているのに、感じたことが変わっていた。作品をアイデアシートで整理しながら何度も見返すことで、様々な見方で見たり、考えたりすることができるようになってきた気がする。友からも自分では気付かなかった自分の作品のよさを伝えてもらえてうれしかった。</p>		○知 ○思 ② ○態鑑（観察・ワークシート）	12

9 資料

○石膏ガーゼの素材研究

(1) 石膏ガーゼについて

石膏ガーゼは、焼石膏の粉末をガーゼに絡ませたものである。焼石膏は、水と化学反応を起こし、硬化する性質をもっている。一度硬化した石膏は、水に浸けて軟化したり再硬化したりしない。硬化目安は季節によって異なるが、概ね15分から30分程度である。完全硬化は2時間程度必要となるが、30分程度でも外圧を加えなければ形を保持できる。硬化中に變形させると仕上がりがもろくなるため、硬化が始まったら形は保持したままにしておく。硬化後の硬度は、垂らした形などはそのまま保持できるが、指で力を入れてつまむと形が変わる程度である。そのため、本題材では、木工ボンドを3割ほど混入した水に浸けて硬化させ、強度を高めている。さらに、作品完成後、木工用ボンドを2～3倍に薄めて表面に塗布することでより強度が増す。また、型取りによる造形も可能だが、型に貼り付かないように、ビニールやラップを型に巻き付けて行う。ただし、本題では、型取りによる造形は具象表現を想起させやすいため、あえて教師側から提示することはしない。

木材との接着は容易であり、硬化前につければそのまま接着する。

絵の具による着彩は可能であり、水分が少な目であれば、絵の具ののりはよい。

(2) 石膏ガーゼの造形例

